



一般社団法人日本キャップ野球協会
2024年度事業計画書

環境認識

- ・2023年度、世間的にも新型コロナウイルスのパンデミックによる活動制限が解除され、各チームがキャップ野球を思う存分プレーできるようになり、**特に全国大会の参加者数は過去最高を記録した**
2024年度は大学チームにとどまらず、中高生や社会人といった様々な層の競技者（以下キャッパーと呼ぶ）に楽しんでもらえる活躍の場を充実させながら、体験会などのイベントを通じて新たなキャッパーのさらなる獲得を目指す。
- ・キャップ野球の存続、発展には若年層の新規参加が不可欠であり、**中高生の層への普及には特に力を入れていきたい**
具体的に、体験会・出張授業・中高生向けの大会を通じて、競技人口の底上げ、永続的なキャップ野球の発展を図る。
- ・国際的には、TikTokやInstagramといったSNSを通じて海外でも多くの視聴者に認知され、台湾選手団の日本大会への参加も実現した。その後、台湾国内のメディア露出もあり、競技の規模は急速に拡大している。
キャップ野球のSNSとの相性の良さを存分に活かし、今後も日本のみならず国際的な普及と成長に貢献していく。
- ・またキャップ野球の競技自体の価値向上にも着手し、**より棲み分けされたこれまでにない最高峰の大会を実施したい**
具体的に、3年以内の全日本選手権大会の開催に向けて、全日本中高生、大学、社会人選手権大会を開催する。
- ・さらに、キャップ野球の社会的地位を向上させるため、競技層以外への発信も同時に進めていく。
SDGsに絡めたエコな側面での競技認知、競技専用バットの作製を通じて、より高度な競技の確立を目指す。

基本方針

「いつでも、どこでも、誰とでも楽しめる」をコンセプトとしているキャップ野球。
SNSでは多くの視聴者を獲得しており、認知度は年を追うごとに増えている。
潜在的なキャッパーが世に多くいる中で、今後如何に競技参画を促すかが鍵となる。

→ 競技の永続的な発展には若い競技者の継続的な流入が不可欠である。

2024年度より次なる5ヵ年計画(5年後に中高生の競技者を大学生と同程度の規模まで増やす)の1年目とし、会員数を500人から2000人へ増やすことを目標に、下記の重点施策を実施し、競技の発展に寄与する。

① 大会の付加価値向上

- ・大会インフラのさらなる整備
- ・キャッパー誰しもが目指す最高峰の場の創出
- ・既存メディア、各種SNSを用いた競技認知
- ・大会の永続的な開催に向けた営業活動
- ・市区町村との連携により、大規模大会の土日開催の恒常化
- ・パートナー企業の模索

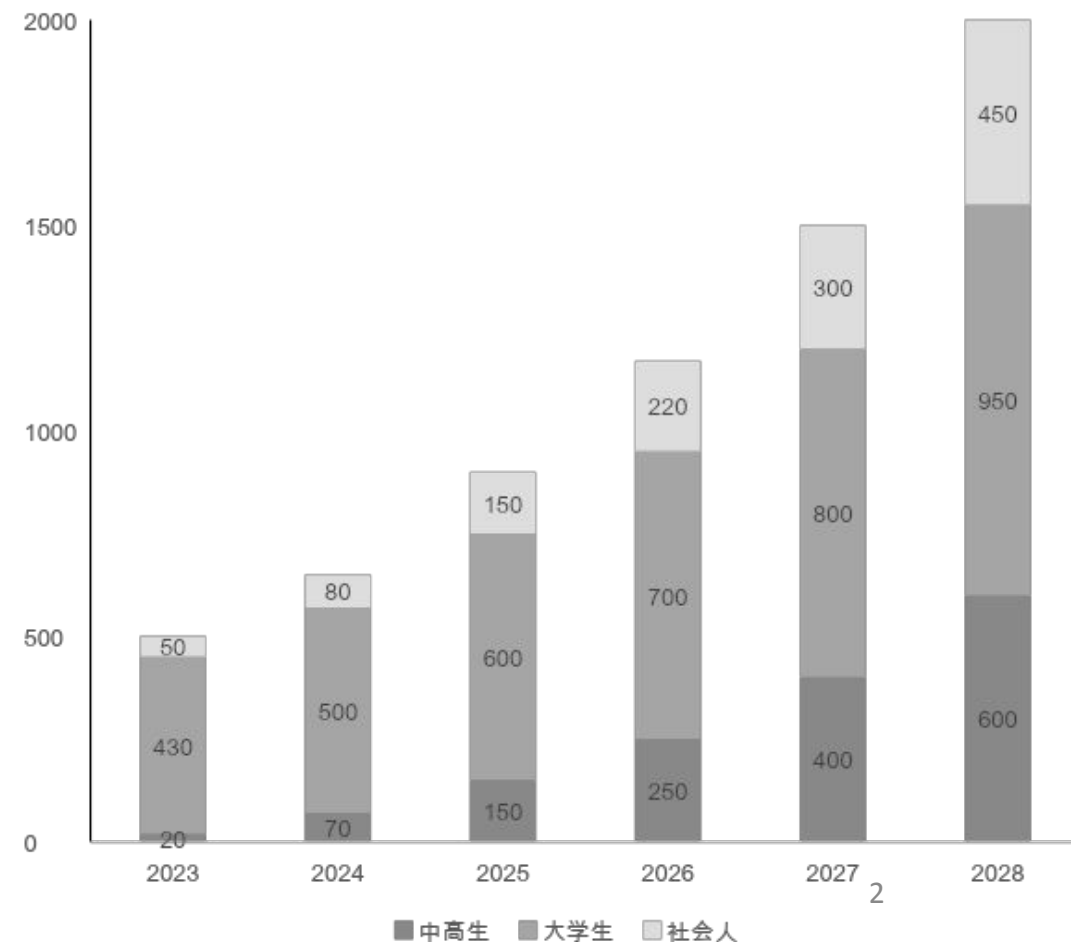
② バット作製

- ・競技バランスを調整しつつ、競技の確立を図るための専用バットの開発

③ 若年層への普及

- ・中高生間におけるキャップ野球のイメージ向上
- ・中高生に向けた定期的な体験会の開催、競技機会の提供
- ・変化球の原理や「キャップ野球」×「SDGs」の出張授業
- ・キャップ野球部活化等の中高生向けの相談窓口の設置

会員数目標



主要事業計画（１）

委員会	事業	目的	概要
企画	SNS普及	競技認知度促進	TikTokでの投稿を続けるとともに、YouTube/Instagram/X/公式LINEの地盤固め。キャッパ以外の人たちにも届けられるコンテンツの投稿で、さらなる認知を獲得。中期的には観客を入れるなど、「観るスポーツ」化への挑戦。協会TikTokをはじめとしたSNSと各種マスメディアとのコラボレーションも図る。
企画	対人普及	競技参画者参画	全年齢の人が楽しめる体験会を各地で開催。若年層の競技参画に向け、会場準備や出張授業を通して多くのキャッパを創出。市区町村や法人と連携し、キャップ野球を絡めた学びの場を創出。パンデミック後の世の中に求められるSNSと対人の融合した普及活動の模索。
企画	大会運営	選手満足度向上 大会開催の安定化 大会の付加価値創出	次の段階の大会開催に向けて、従来の大会により価値をつけることに尽力する。それぞれの競技ステージにいるキャッパに対応した、棲み分けされた大会も開催しつつ、さらなる競技者増に伴う試合数の確保。大会開催の安定化に向けて、市区町村と連携、会場確保のための営業活動。
企画	競技規則	競技の安定化	キャップ野球の手軽さを残しつつ、全体の競技レベル向上を目指す。適宜ルール調整・改正を行い、選手の安全性や公平性、競技バランスを保つ。審判員制度の導入を進め、競技全体にスポーツマンシップが確保され続ける環境の整備。
企画 リーグ	選手育成	競技レベルの促進	競技の全体レベル向上に伴い、新規競技者の参画ハードルが高くなる、またチーム事情により試合機会の減少する選手の増加といった懸念がある。全競技者に門戸を開いている大会は残しつつ、新規参入者層と上級者層への試合機会の創出を図り、競技者一人一人に合わせたレベルアップの場を提供できる環境を整備する。例)全日本大学選手権大会・全日本高校生選手権大会・通期的な新人用試合の場等

主要事業計画（2）

委員会	事業	目的	概要
総務	協会事務	協会の安定化	協会・チーム・競技者・法人を繋ぎ、連携強化を図る。 各チームより協力会員の参画を必須とし、協会運営のマニュアル化を進め、スムーズな引継ぎ・新旧世代交代を実現しつつ、永続的にキャップ野球を発展させる環境を構築実施。 AIやツールを活用したバックオフィス業務の最大効率化を模索。
デジタル	情報集約	競技データの管理	キャップ野球情報局・CAP-SCOREBOOKと連携し、キャップ野球の記録、情報を集約。 中期的に、キャップ野球の動画共有プラットフォームの構築、 長期的に、キャップ野球専用アプリの開発を目指す。
マーケティング 理事会	法人営業	協賛獲得	大会や協会イベントにおける協賛を獲得すべく、法人への営業活動を実施。 同時にキャップ野球の社会的価値の向上。
マーケティング	出展イベント	ブランディング	キャップ回収からSDGsの達成に貢献、「エコなスポーツ」としての認知度向上を目指す。 社会全体と競技の双方に有益な結果をもたらし、幅広い世代の人々に向けて活動を発信。
マーケティング 企画	専用バット開発	競技の確立	専用バットを開発し、キャップ野球の競技としての確立、競技バランスの調整を図る。 バット製作に向けた費用及び製作会社の協賛を模索しつつ、最終的に割れたキャップを材料とした専用バットの実現で、キャップを最後まで使うサステナブルな競技を目指す。
リーグ	リーグ運営	リーグ運営	どのレベルの選手も実力を日々高められる場として、試合提供を続ける。 リーグ戦の安定開催に向けた会場確保のための地域連携や営業活動の実施。
理事会	国際的な取り組み	国際的認知度向上	台湾でキャップ野球の普及活動をサポート。 SNSや他メディア、海外イベント等でのキャップ野球の認知拡大。
理事会	ガバナンス	協会の安定化	協会内組織体制の刷新、機能しない委員会を統合し、今後キャップ野球の発展に寄与したいものへの活躍の場を後押しする協会体制を構築する。 事業スピードを落とすことなく、協会事業の透明化を図る。
理事会	メディア	社会的価値向上	既存メディアへの露出を増やすべく、案件一つ一つを真摯対応しながら、数少ないチャンスを絶対に逃さず、キャップ野球の社会的価値向上に繋げる。

組織体制

- **2023年度、8委員会8部門→2024年度5委員会11部門へ**

- └ 企画委員会への統合で大会の連携強化を模索
- └ より幅広い事業を同時に進められる組織体制へと変化

- **代表理事3名・理事8名・協力会員47名で今までにない規模へ**

- └ 代表理事:弓矢に代わり、花田の就任
- └ 新理事6名の参画(4名の退任)
- └ 協力会員へ副委員長・部門長の権限付与

- **会議の定常化による強固な連携、情報共有**

- └ 関東理事定例会の対面開催
- └ 企画委員会の月一定例会

本年度もどうぞよろしくお願いいたします！

初めてコロナの制限なく活動が行える2024年度、
キャップ野球におけるポストコロナ元年とし、
次の5年で**私たちが大好きなキャップ野球**を如何に、
この世の中にインパクトを与え、定着できるかが勝負です！

一人一人の小さな積み重ねが、キャップ野球の未来を創ります！
お互いの強みとキャップ野球への愛で、自分達がより誇れるキャップ
野球を創り上げていきましょう！